

(様式2)

校種	①・中 どちらかに○	学校番号	16	学校名	宇都宮市立石井小学校
----	---------------	------	----	-----	------------

平成30年度 学習指導に関する取組

1 学習指導上の主な実態

(1) 国・県・市の学力調査などから

- ・ 学習の基礎である国語・算数の学力は、全ての観点で県・市の平均を上回っている学年、やや下回っている観点がある学年と、学年によって多少の差が見られる。
- ・ 各教科を観点別に見ると、どの学年も「知識・理解」の正答率がほかの観点に比べて高く、「思考・判断」が低い傾向にあり、学習で得た知識を基に思考・判断し、表現する活用力が十分とは言えない。
- ・ 高い学力を示す児童が多数見られる一方で、身に付けた知識や技能を十分に発揮できていない児童もあり、定着に個人差がある。
- ・ 国・県・市の調査ともに記述式設問の無回答率が市の平均と比べて高く、自分の考えを文章にまとめて書く力は十分とは言えない。

(2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

- ・ 市の調査結果から「授業への取り組みについて」と「学習に対する気持ちや態度について」については、どの学年も平均すると肯定的回答が85%以上であり、学習に意欲的に取り組んでいることがうかがえる。
- ・ 市の調査結果から話し合いへの積極的な参加や聞く態度の面では肯定的に回答した児童の割合が高く、どの学年も定着が見られる。しかし、4～6年生は、市の調査の「理由をあげながら話すことができる」に肯定的に回答した児童の割合が60%台にとどまっており、自分の考えをまとめ、根拠を挙げながら話すことを苦手とする傾向がある。
- ・ 国・県・市の調査ともに「家で、宿題をしている」「宿題はきちんとやり、期限までに提出している」に肯定的に回答した児童の割合は、市の平均を上回っているが、自ら取り組む態度に関わる項目は平均を下回っており、指導を充実させる必要がある。

(3) 授業等への取組状況から

- ・ 学習意欲が高く、与えられた課題に真面目に取り組むことができている。
- ・ 授業の終末において、課題に対する学習活動の結果を振り返り、自分の努力の成果を実感できている児童が多い。
- ・ 友達の意見を聞くことはできるが、自分の考えを進んで発表し、友達と考えを練り合いながら思考を深めていこうとすることにやや消極的な傾向が見られる。
- ・ 家庭学習では、宿題をきちんとやる習慣は身に付いているが、自分で計画を立てて学年に応じた自主学習に取り組む態度は十分とは言えない。

2 今年度の重点目標

「豊かなかかわりの中で、いきいきと活動する児童の育成」
～言語活動を効果的に取り入れた国語科の授業づくり～

3 今年度の取組（「平成30年度指導の重点」に関する取組は文頭に□，授業における取組のうち重点は文頭に○）

（1）基礎・基本の確実な定着

- 基本的な学習技能の習熟と家庭学習の習慣化（通年）
 - ・ 朝の活動を活用した漢字の読み書きや，計算力などの基礎学力の定着（通年）
 - ・ 授業の復習に重点をおいた宿題内容の検討と提出された宿題の適切な評価（通年）
- まとめの学習の充実（通年）

（2）学習指導の工夫・改善

- 各種学力調査，学習・生活に関するアンケートの結果を生かした指導の改善（4月）
- 豊かなかかわりをもち，より思考を深め合う学習活動の工夫（通年）
- 振り返る活動の充実（通年）
- 習熟度別学習・少人数学習等の工夫改善によるきめ細やかな学習指導の実践（通年）
 - ・ 一人一研究の授業実践（通年）

（3）読書活動の充実

- ・ 朝の活動を利用した全校一斉の読書活動の実施（通年）
- ・ 校内読書週間の実施（6・11月）
- ・ 読み聞かせボランティアとの連携（通年）

（4）家庭・地域との連携・協力

- 「石井っ子の学習・生活・体力づくり」をもとにした家庭との連携（通年）
 - ・ 地域協議会との連携，協力（通年）